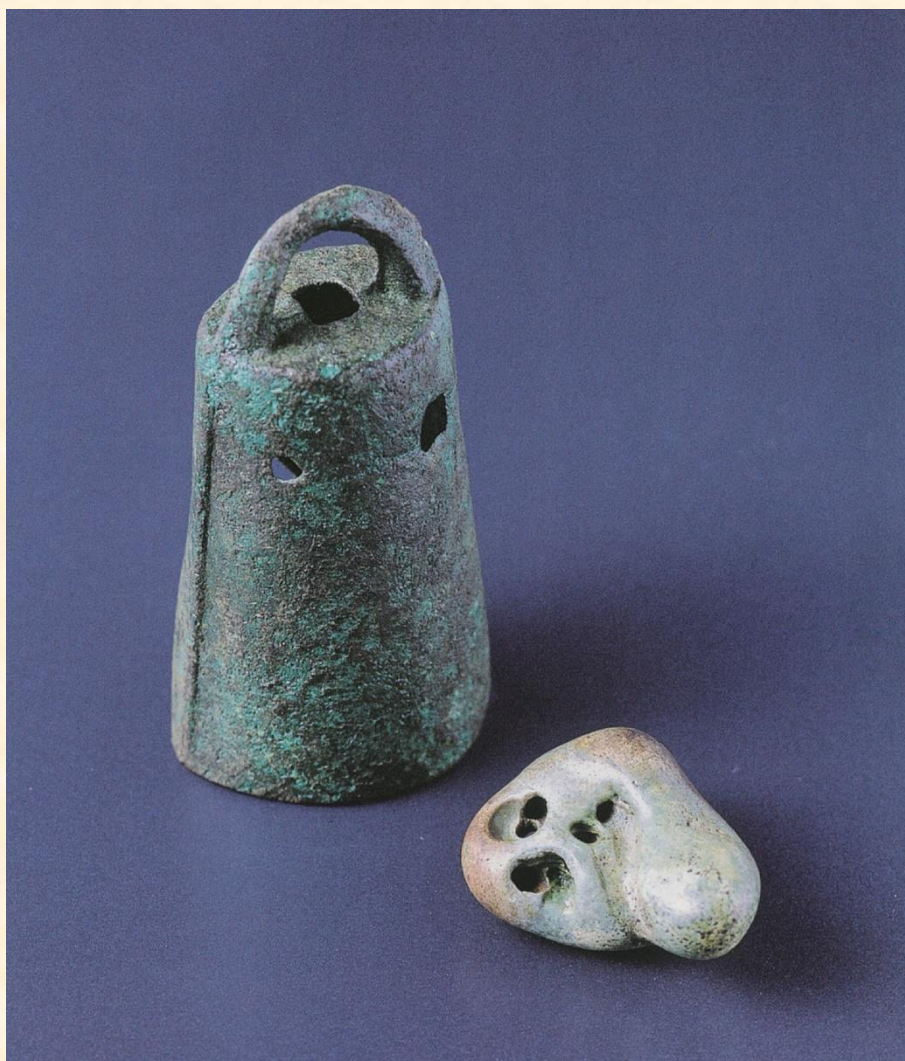


銅鐸の中に音をならす石製の舌が納まった状態出土した！

なかごしいせきしゆつどしょうどうたくつけたりせきせいぜつ  
中越遺跡出土小銅鐸附石製舌



小銅鐸は、弥生時代に祭祀の道具として使われた青銅製品で、手のひらに乗るほどの小さなものです。木更津市大久保にある中越遺跡から出土しました。古墳時代前期の竪穴住居跡が埋没した後に埋納されたことが、発掘調査から推定されています。また、小銅鐸の内部に収まるように礫(れき)が見つかり、その大きさから、舌として使われたと考えられます。舌とは、音を鳴らすために吊るした「振り子」であり、振ると舌と内側の金属部分が触れて、音を発する仕組みです。

このように、舌を伴って埋納されている点はきわめて貴重な事例です。

\*\*\*\*\*

市指定文化財：有形文化財（考古資料）

指定年月日：令和4年8月9日

所在地：木更津市太田 2-16-2（木更津市郷土博物館金のすず）

所有者：木更津市

員数：1点 附1点

公開・非公開の別：公開

\*\*\*\*\*